

鹿児島の昆虫30 スピードスター：ハエの憂鬱

昆虫担当 金井 賢一

ハエというと、何となく嫌なイメージがついて回りますね。食べものの周りを飛ぶからでしょうか？道ばたにあるイヌのふんなどに止まっている姿を見ってしまうからでしょうか？それこそ五月蠅いからでしょうか？

しかし非常に多様な生活をしているハエは、面白い研究対象です。例えば、ヤドリバエの一種はチョウの幼虫に卵を産み付けて、ふ化したハエの幼虫がチョウの幼虫の体に入って寄生します。また別な種では、小さな卵を葉に産み付けておき、それを食べた幼虫の消化管から入って寄生するのもあります。



さて、ハエは昆虫ですが羽が2枚しかありません。子どもたちがよくとまどうのですが、これは4枚の羽のうち、後羽



2枚が退化してしまったからです。退化して棒状になったものは平均棍てんぐんと呼ばれます。この平均棍を切り取るとハエはうまく飛べなくなるので、そのような名前が付いたのでしょうか。

時速70～80キロで飛ぶことのできる種類もいるハエですが、そのためには大きな目で風景を認識し、羽の筋肉に伝えて方向を転換しています。ところが、4月、口之島で、畑の周囲を覆うネットに頭から突き刺さってもがいているハエに出会いました。彼らはあまりの速さを手に入れたために、衝突事故も多いのかもしれませんが。ヒトの世界でも、多くの人が車に乗るようになってから「交通戦争」と呼ばれるほど、事故が多発しました。車の運転をするときには、スピードには十分注意しようと決意する光景でした。



鹿児島の動物24

コサギとダイサギ

動物担当 山田島崇文

一般に白鷺（シラサギ）とは、白い毛に覆われたサギの仲間を指します。なので、厳密にはシラサギとい

写真1 夏羽^{*1}のコサギ

う名前の鳥はいません。今回は、もっともよくみられるシラサギの仲間、コサギとダイサギを紹介します。

コサギは、水田や河川、干潟などでエサをとり、ねぐらを松林や雑木林、川沿いのやぶなどに作ります。全長^{*2}は約60cm。くちばしの色が一年中黒色で、足指が黄色をしています。夏には、後頭部に2本のひも状の冠羽が見られます。（写真1）「グアー、グアー」とよく鳴きます。

ダイサギは、全長約100cm、翼を広げると約170cmになる大型のサギです。くちばしと

足以外は白色です。夏羽では、くちばしが黒く、目先が青色になります。一方冬羽では、くちばしが黄色に



写真2 冬羽のダイサギ

なります。（写真2）「ガガガガ」と鳴きます。

ほかにもシラサギの仲間には、チュウサギやヘラサギがいます。双眼鏡を片手に、干潟などに出かけて、これら純白の姿を観察してみませんか。

用語解説

*1 春から夏の繁殖期に見られる羽毛のことで、一般に冬羽にくらべて鮮やかで目立ちます。

*2 鳥を仰向けに寝かせた姿勢での、くちばしの先端から尾までの長さ。実際立っているときの鳥の大きさは、この長さより小さく見ることがあります。